



学校だより

令和2年7月16日発行

当たり前前の方が当たり前前にはできる有り難さを感じて

校長 福田 雅紀

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応のため、多くの学校行事を実施することができず、児童生徒や保護者の皆さんには、様々な我慢をさせていただいていることにお詫びと感謝を申し上げます。

「薔薇ノ木ニ 薔薇ノ花サク。ナニゴトノ不思議ナケレド」という詩がありますが、多くのことで自粛を求められる今、当たり前前の方が当たり前前にはできることの有り難さを感じます。できることに慣れてしまい、少々面倒だなと感じていたことも、いざ、それができなくなると、それをすることによどのような意味があったのか、あらためて考えさせられます。この時間は、忙殺されていたわたしたちに、「しっかり立ち止まり、己を見つめ直しなさい」と神様が与えてくださったものと考え、元の暮らしに戻ったときに、これまで以上にその活動の有り難さと楽しさを感じていければと思っています。

そんな中、救われるのは、本校の多くの児童生徒が普段と変わらず笑顔で学校生活を楽しんでくれていることです。与えられた環境の中で、一生懸命活動している子供たちの姿を見ると、あなたもしっかりしなさいと励ましてもらっているようで、たくさんの元気をもらっています。

新型コロナウイルス感染症への対応は、まだまだ先が見えませんが、これからも児童生徒の安心・安全を第一に考えた取組は継続しつつ、気持ちは前向きに、できることには工夫をしながら積極的に取り組んでいきたいと考えていますので、引き続き、御協力をお願いします。

小学部

小学部は、例年、毎月1回、木曜日の2時間目に、全体育館に集まり「学部集会」を実施しています。

現在、みんなで集まることはできないため、先日は、新1年生24人全員の自己紹介をVTRにまとめて、各教室のテレビで見る形で「学部テレビ集会」を行いました。新1年生はそれぞれに名前のほか好きな物、ダンスなど発表し、他学年の児童はそれを見て学部の仲間意識を高めることができました。

高等部

6月8日から12日までの5日間は校内実習(Ⅱ・Ⅲ課程)、10日から12日までの3日間は学力向上定着期間として90分授業(Ⅰ課程)を行いました。産業現場等における実習や職場見学など、進路に関する行事等も延期や中止を余儀なくされていますが、将来に向けての必要な力を身に付けるべく、校内での学習に真剣に取り組むことができていました。

今後状況次第ではありますが、夏休み中に施設見学、2学期には産業現場等における実習など、進路に関わる学習を計画しています。



中学部

中学部では、体育学習の成果を発表する場として「ミニミニ Jr.オリンピック」を計画しました。出場種目は、自分が走る一番いい記録を目指す「ベストをめざ走(徒競走)」と自分たちでダンスの動きを考える「維新ダンシン鹿児島市」、決められた距離を走ったり、ひもを引いたりして自分の体の動きを知る「走ってときめけ、引いてときめけ、みんな一緒にきらめこう」です。開会式、出場種目、閉会式に関するアナウンスや出発、審判、音響などの係活動も生徒たちで担当を決め、練習に取り組みました。練習を重ねるたびに、記録が良くなったり、動きを覚えて歌いながらダンスができたりと自信を付けていくことができました。当日は、あいにくの雨でしたが、体育館で発表をしました。うれしい、楽しい、恥ずかしいなどそれぞれの気持ちを発表した生徒たちの生き生きとした表情が魅力的でした。



寄宿舎

今年度の寄宿舎生は、中学部4人、高等部12人の計16人です。新しく2人の生徒が入舎しました。学校での授業を終え、自由時間を過ごした後は入浴、食事となります。食後はそれぞれの舎室で学習に取り組んだり、お互いの距離に気を付けて学習ホールに集まったりしています。学習ホールでは、先輩・後輩一緒になってテレビを観たり雑談をしたりと、リラックスしながら過ごす場となっています。



訪問教育

今年度は6人の新入生を迎え、小学部7人、高等部12人の計19人でスタートしました。小学部児童は自宅で、高等部生徒はやまびこ医療福祉センターの病棟内や隣接する皆与志養護学校内の教室を借用し、学習しています。今回は、小学部の学習の様子を紹介します。スイッチ学習に取り組んでいるこの児童は、6年生になった今、意思伝達装置で自分の気持ちや体調を伝えたり、タブレットのアプリを自分で選び操作したりと、様々な学習活動に取り組んでいます。(写真はミシンで布袋を作っている様子です。)



